

遠野市におけるデジタルコンテンツを活用した物語性ある観光情報拡散の研究 (「遠野萌えキャラプロジェクト」の継続研究)

岩手大学教育学部 芸術文化課程 美術・デザインコース 映像メディア研究室学生チーム
(発表者：鈴木芙由子、吉住彩夏、木村望、成瀬優美)

指導教員：教授 本村健太

序

遠野市は、『遠野物語』に代表される民俗学や語り部が聞かせる民話、郷土芸能などの農村文化を資源に観光振興を図っている。従来、観光情報は、大量のポスターやチラシ・パンフレットを制作し、観光地側からの情報発信による手法が一般的であったが、旅行者の嗜好も多様化してきているうえ、昨今の情報通新技術の著しい発展を受けて、旅行先の選択時に、インターネット上の他の旅行者の意見・感想等、いわゆる「口コミ」を重要な判断基準にしている例も増えてきている。

そこで、平成 27 年度に映像メディア研究室学生チームの実施した「遠野萌えキャラプロジェクト」の研究成果(図 1)を活用しながら、遠野の有する物語性を素材に活かしたデジタルコンテンツを作成し、新たな旅行客層を対象とした情報発信を行うこと、そして、SNS 等において発信された情報の旅行者間や遠野の潜在的なファン層への広がりなど、情報拡散の発現状況について調査を行うことによって、今後の観光情報の発信方策等を探り、観光振興、都市農村交流の促進を目指すことが課題として提案された。



図 1：平成 27 年度「遠野萌えキャラプロジェクト」にて誕生した 4 人のキャラクター

「遠野萌えキャラプロジェクト」4 人のキャラクター：

- ・綾織 楓花 (あやおり ふうか)：遠野風の丘
- ・早池峰 あすか (はやちね あすか)：遠野ふるさと村
- ・小鳥瀬 弥子 (こがらせ みこ)：伝承園
- ・高室 エマ (たかむろ えま)：たかむろ水光園

平成 27 年度に学生チームが提案した Twitter と Facebook での発信は継続的に行う予定である。

平成 28 年度地域課題解決プログラム

- ・遠野萌えキャラプロジェクト Twitter :
<https://twitter.com/tonomoechara>
- ・遠野萌えキャラプロジェクト Facebook :
<https://www.facebook.com/tonomoechara/>

また、平成 27 年度の成果として、道の駅遠野風の丘においては、等身大パネル綾織楓花が制作され、来店者をもてなすように設置（図 2）されている。



図 2：綾織楓花が来店者をおもてなし

研究室学生チームは、遠野市六次産業推進本部と協議を行い、遠野の観光資源を P R するための課題を確認しつつ、必要となる萌えキャラの改善とその背景としての物語性の具現化を行う。そうしてできあがったコンテンツをインターネット上で発信、また、遠野市側でもそれを推進して検証することにより、その有効性やよりよいコンテンツのあり方、遠野市の P R 方法を見出していくことなど、これらが今年度当初の設定課題であった。

I. 本研究課題について

(実施計画・方法)

遠野市六次産業推進本部の永田裕氏をはじめ、道の駅「遠野風の丘」の鈴木充支配人、伝承園の菊池美保支配人との協議（図 3）を行い、今後の課題を確認しつつ、今年度のプロジェクトを計画した。また、今年度も遠野市の現地視察を実施することにした。

○協議（岩手大学芸術棟 2 階、視覚文化演習室にて）

- ・平成 28 年 7 月 7 日（木）
- ・平成 29 年 1 月 19 日（木）

○遠野市現地視察

- ・平成 28 年 11 月 27 日（日）

参加学生：伊藤光、高橋詩歩、吉住彩夏、山口千代香、五十嶋綾乃、木村望、鈴木祐衣、岡真帆、安藤緋奈子、片柳香菜、成瀬優実



図 3：岩手大学芸術棟における協議の様子

○実施計画（今年度後期に集中して制作・発信）

協議の結果として、主に以下のようなことが計画された。

イラスト制作に関して：

- ・小鳥瀬弥子の等身大パネルを作る（伝承園）
- ・キャラクターのポーズや衣装を変えて表現してみる
- ・遠野物語に登場するような妖怪の要素をキャラクターに加えてみる
- ・できあがったイメージ作品や四コマ漫画などを Twitter や Facebook で発信する
- ・遠野風の丘でパネル展を開催する

卒業研究として：

- ・映像メディア研究室 4 年生の伊藤光が 4 人のキャラクターに物語性を加え、「遠野市を舞台としたノベルゲームの制作研究」を題目として卒業制作を行う

イラスト制作や卒業制作、そして SNS（Twitter・Facebook）での発信に関しては、研究学生チームが中心となってデジタルデータでの制作を行う。等身大パネルや商品化の試み、パネル展の実施に関しては、岩手大学側から作品やデータを送付して、遠野市側で担当し、本プロジェクトに取り組む。

II. 今年度における研究活動の経過について

（結果・考察）

岩手大学において、平成 28 年 11 月 25 日（金）、「三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウム」が開催され、遠野市長本田敏秋氏による「『遠野スタイル』によるまちづくり 2016」と題する特別講演がなされた。この中で、本田市長は、講演の序盤において民俗学者柳田國男の『遠野物語』（1910 年）序文にある「願はくはこれを語りて平地人を戦慄せしめよ」という言葉、そして柳田に郷里の昔話を語った遠野出身の民俗学者佐々木喜善（きぜん）を紹介して、「遠野物語による日本民俗学の発祥」をアピールした。（本村指導教員が拝聴）

平成 28 年度地域課題解決プログラム

すでに『遠野物語』は、発刊 100 周年を機にドラマ「続・遠野物語 ～見えない世界が、そこにはある～」(NHK 盛岡放送局、2010 年)が放送されたり、『ゲゲゲの鬼太郎』で有名な漫画家水木しげるが『水木しげるの遠野物語』(小学館、2010 年)に漫画で表現していたりと、県内だけでなく、全国的に有名なものとなっている。また、『遠野物語』にまつわる柳田や佐々木らのやりとりを通して、異界との共生を綴る『遠野物語・奇ッ怪 其ノ参』が演出家前川知大(ともひろ)氏によって舞台化された。『遠野物語・奇ッ怪 其ノ参』は、超常的な世界観を真骨頂とする劇作家の演出とともに、人気のある役者たちが演じたこともあり、大きな反響を得ている舞台である。この岩手公演は、平成 28 年 11 月 30 日(水)に岩手県民会館大ホールにて開催された。(本村指導教員が観劇)

・参考:【ロコミ・感想】舞台『遠野物語・奇ッ怪 其ノ参』の評判、評価

<http://theater.enjoy-cinema.com/> (「遠野物語・奇ッ怪 其ノ参」で検索)

以上のように、遠野物語は遠野市の文化的背景となるコンテンツとして重要なものとなっている。遠野物語に登場するような妖怪のキャラクターの要素を 4 人のキャラクターに加えてみることは遠野市の P R のために有効である。

○遠野市現地視察 平成 28 年 11 月 27 日(日)

研究室学生チームによる遠野市視察(とおの物語館、伝承園、遠野風の丘など)によって本プロジェクトの取材や打ち合わせ(図 4)を行った。



図 4: 岩手県遠野市の現地視察

○キャラクターのポーズや衣装を変えて表現してみること

昨年度の協議において、萌えキャラ原案を提案した際に含まれていた郷土芸能の衣装も非常に好評であったため、4人のキャラクターそれぞれに伝統的な衣装を着せてみることにした。その際に遠野市の永田氏から以下のような説明と関連づけの提案があった。

- ・神楽：風の丘の地元（綾織）の石上神楽（いしがみかぐら）
- ・しし踊り：ふるさと村の地元、附馬牛（つきもうし）の張山（はるやま）しし踊り
- ・山口さんさ：水光園の北側の山口集落に伝わるさんさ踊り
- ・南部ばやし：遠野の町場の芸能

そこで、遠野風の丘の綾織楓花に「石上神楽」、遠野ふるさと村の早池峰あすかに「しし踊り」、伝承園の小鳥瀬弥子に「南部ばやし」、たかむろ水光園の高室エマに「山口さんさ」の衣装を着せたイラスト（図5）を制作することにした。



図5：郷土芸能の衣装を着た萌えキャラ4人

○キャラクターをデフォルメし、遠野物語に登場するような妖怪の要素を加えてみる

4人をおかわいらしくデフォルメして三頭身の「ちびキャラ」も試作（図 6）した。夏服・冬服の衣装、そして妖怪の要素を加えた展開にした。このような「デフォルメキャラ」（ちびキャラ）たちは、今後のグッズ化・商品化に役立つかもしれない。妖怪版には、それぞれ妖狐（ようこ）、化け猫、雪女、天狗の要素を加えている。



図 6：デフォルメ三頭身のミニキャラ（上から：夏服版・冬服版・妖怪版）

○SNSによるWeb上での情報拡散の試みについて：

平成28年1月に開始した「遠野萌えキャラプロジェクト」の情報発信（TwitterとFacebook）を今年度も継続していくために、関連のコンテンツを制作し、その都度発信を行った。

平成 28 年度地域課題解決プログラム

以下（図7・図8）は、情報発信の事例である。

・夏の気配が近づいて来ましたね～！遠野の4人はいち早く川遊びを楽しんでいるようです（キラキラ）
さてこのプロジェクト、今年の秋に再始動します！どうぞ楽しみに！



図7：遠野萌えキャラプロジェクトTwitter @tonomoechara 2016年7月6日

・皆様お久しぶりです！遠野萌えキャラプロジェクト、再始動します！



図8：遠野萌えキャラプロジェクトTwitter @tonomoechara 2016年12月4日

SNSでの発信用として、四コマ漫画などの作品（図9）も制作して公開した。



図9：SNS発信用の四コマ漫画の事例

本村指導教員が個人作品（図10）を制作し、匿名でFacebookページにアップした。

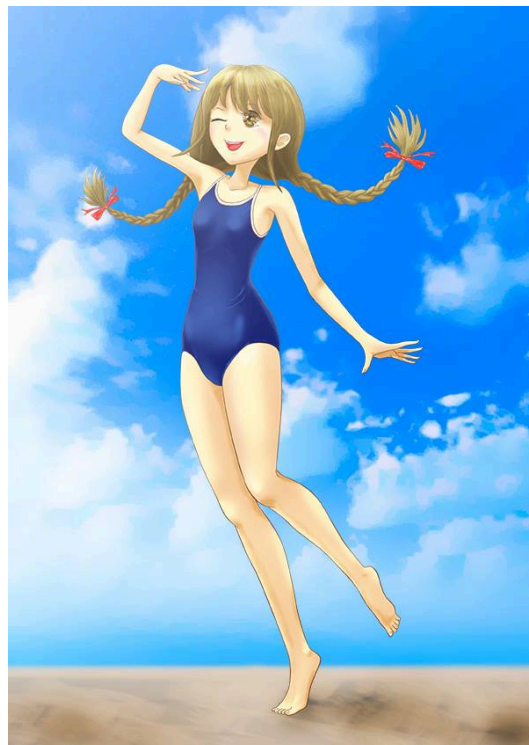


図10：ファン作品としての小鳥瀬弥子「夏の出来事」（夢）・早池峰あすか「夏の思い出」（夢）

平成 28 年度地域課題解決プログラム

平成29年2月1日、TwitterとFacebookのページにおいて以下のイベント情報を告知した。

“SNS見たよ”で、非売品萌えキャラグッズプレゼント！

～道の駅遠野風の丘～

「遠野萌えキャラプロジェクト」スタートから1周年を記念して、道の駅遠野風の丘では、2月1日（水）から、“綾織楓花オリジナルグッズ”を先着50名様にプレゼントします。

～伝承園～

「遠野萌えキャラプロジェクト」スタートから1周年を記念して、伝承園では、2月1日（水）から、“小鳥瀬弥子オリジナルグッズ”を先着30名様にプレゼントします。

遠野萌えキャラプロジェクトのFacebookページにおける「インサイト」情報によると、その投稿（コンテンツ）を見た人の数を表す「リーチ数」が、平成29年2月1日の遠野風の丘でのプレゼント告知が200、伝承園でのプレゼント告知が300を超えている。（平成29年3月8日の確認でそれぞれ、219人、338人）プレゼント用の「非売品萌えキャラグッズ」については、例えば、図11のような綾織楓花オリジナルグッズとして、遠野風の丘が製作し、萌えキャラが浸透するように努力している。



図11：非売品萌えキャラグッズプレゼントの事例（缶バッチ、遠野風の丘）

平成28年12月5日、図8とともに更新再開を宣言した投稿は、リーチ数1000を超え、最大となっている。（平成29年3月8日の確認で1033人）この投稿がきっかけとなり、『AfterEffectsの達人』の著者である宗宮賢二氏によって遠野萌えキャラプロジェクトへの協力の申し出があり、現在対応中である。（今後の宗宮氏の著書のなかで、本プロジェクトの萌えキャラを使った紹介の可能性を検討中）

また、次に紹介するパネル展の情報拡散の投稿はリーチ数279（平成29年3月8日確認）となっている。

○「遠野萌えキャラプロジェクト パネル展」について

道の駅遠野風の丘の市民ギャラリーにおいて、平成29年3月1日～15日、「遠野萌えキャラプロジェクト パネル展」(図11)が開催された。展示用のイラストは、研究室学生チームで準備し、プリンター出力したもの(図12)を遠野風の丘に発送した。



図11:「遠野萌えキャラプロジェクト パネル展」の様子



図12:「遠野萌えキャラプロジェクト パネル展」用のイラスト

- ・ 遠野萌えキャラプロジェクトパネル展 (市民ギャラリーのブログ)
<http://kazenooka-gallery.blogspot.jp/2017/03/blog-post.html>

○小鳥瀬弥子の等身大パネル

映像メディア研究室 3 年生の高橋詩歩が中心となって小鳥瀬弥子身大パネルのイラスト・データ制作（図13）を行った。（今後、伝承園にて等身大パネルを設置する予定である。）



図13：小鳥瀬弥子等身大パネル用のポーズ画

小鳥瀬弥子のキャラ設定においては、当然のことながらオリジナルで考えてきたが、結果的に既成のキャラクターに似てきてしまった点があり、今後、髪色やスタイルを微調整してイメージが重ならないように調整することにした。

○遠野市を舞台としたノベルゲームの制作研究（4年 伊藤光）

Windows と OS X 上で動作する統合型のゲーム開発環境である「Unity」を使ってノベルゲーム『遠野少女奇譚』を制作することにした。（Unityの「Personal」版は無償で利用できる。）4人のキャラクターを登場させ、その日常的なやりとりを物語化して関係性を作り、ユーザーがより親しみやすいキャラクターとして認識できるように工夫した。

制作においては、まず第一に、ゲーム内で登場するキャラクターの描画方法を統一するために4人のキャラクターを再構成（図14）した。

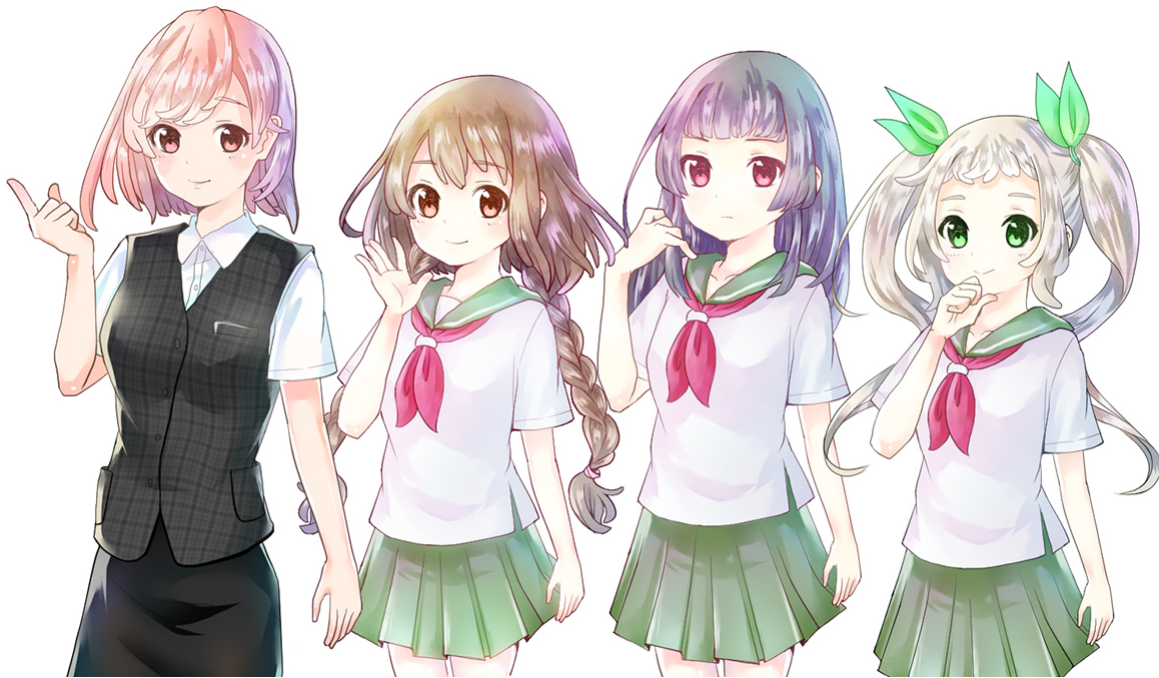


図14：伊藤光によるキャラクターの再構成



図15：遠野視察による背景画の制作

平成28年11月27日の遠野市の視察において、登場する舞台（背景）について取材し、撮影した写真をもとにして背景画（図15）を制作した。

平成 28 年度地域課題解決プログラム

ゲーム構成（図16）は、伊藤光オリジナルのノベル（会話）が、ユーザーの選択によってバリエーションをもって展開するような設定になっている。



図16：『遠野少女奇譚』のゲーム画面



図17：卒業制作展における展示の様子

完成した作品『遠野少女奇譚』は、「岩手大学卒業・修了制作展2017」（2017年3月3日（金）～9日（木）、アイーナ5階展示室）にて一般公開（図17）した。

平成 28 年度地域課題解決プログラム

以上、遠野萌えキャラプロジェクトは岩手大学の学生チームから生まれ、まだ始まったばかりであり、ネットでの反響を受け始めているところであるが、広告費を投じて知名度を高めるものでもないため、このキャラクター4人を浸透させ、そこから遠野の観光資源をPRするためにはこれからも継続的で地道な活動が必要である。

今後は、外国人旅行者や若者などの新たな観光客層も視野に入れ、観光施設のPRグッズ開発や観光施設におけるイベントの発案など、萌えキャラによる貢献の可能性について取り組んでいくことができれば幸いである。

最後に、遠野市六次産業推進本部の永田裕さんをはじめ、本プロジェクトに関してお世話になった遠野市の皆様に感謝します。



ぜひ、遠野にいらしてください。 綾織楓花

